



全教北九州

「新聞 全教北九州」
全教北九州市教職員組合
発行責任者 中川喜久子
2018.2.23

ホームページ： 検索 **全教北九州**

この新聞はすべての教職員に配布しています

長時間勤務の改善には、教育施策関連業務の是正から！ ～長時間過密労働改善に向けた春闘要求書を提出～

時間外の勤務縮減は

喫緊の課題です！

教員の長時間勤務は異常！

この間、文科省による教職員の「業務実態調査」等による教員の長時間過密労働の実態が明らかになりました。結果は、中学校教諭の在校時間は、79時間12分、小学校は、67時間50分でした。また、持ち帰り時間を含めた結果は、中学校17時間20分、小学校103時間2分でした。OECDでの調査でも、勤務時間調査参加国中の平均を大幅に上回り、世界最長であることが問題となりました。

文科大臣も看過できない！

と発言！

「働き方」改革をすすめるようとしている政府にとって、明らかに過労死ラインを超える働かされ方をしている教員の長時間勤務に対し、「看過できない」

（見逃すことはできない）という発言があり、文科省も「業務改善のためのガイドライン」等で教員の働き方改善の方向性を示し、各自治体教育委員会でも

長時間勤務の改善・是正に取り組まざるを得なくなりました。**北九州市が進める業務の効率化では解決できません！**

しかし、無定量的な働かされ方を強いられている教員が多数を占める中、「校務支援システム」による校務の効率化・情報化や「業務改善プログラム」の実施で長時間勤務の改善をすることはできません。なぜなら、教員の長時間勤務、多忙の根本にあるのは、学力向上をはじめとする多種、多様な教育施策関連業務の負担が大きいからです。

長時間過密労働の改善

を強く求めます！

全教北九州は、三月に教育委員会に対して、教職員のいのちとくらし、教育条件の整備等を

求める「春闘要求書」を提出します。この要求書は、多忙を極める職場の実態を反映したものです。組合の学校訪問で、その職場の先生から「教育委員会から校長が呼び出され、長時間勤務の先生が多いのはどうしてなのか」聞いた

だされたそうです。その学校は、先生方が正確に出退勤を記録していたために結果として長時間勤務の実態が明らかになったようすが、呼び出しされたことに怒りを感じたそうです。しかし、超勤の原因は、部活動や学力向上のために現場におろされる、各種教育施策等のため、無策な市教委がその責任を負うべきです。小学校では、来年度から外国語の教科化施行に伴い、水曜日も六校時まで授業という学校もあります。

私たちは、給特法の趣旨に沿った勤務時間内に仕事を終えることができるよう、教職員の数を増やす要求や学力テスト体制を改める要求、教職員のいのちと健康、生活

と権利を守る要求を掲げた要求書をもとに、教職員の切実な願いや思いが届くよう交渉をします。

子どもの笑顔は 中とりある学校で

全教が「長時間過密労働の抜本的解決を求める提言」を発表！

「もっと子どもたちと関わりたい」「もっと時間をかけて授業の準備をしたい」…、そう思っている、会議や書類作りなどに追われる毎日。学習指導要領の改定で、授業時数はさらに増える…。こんな中とりのない学校では、子どもたちの健やかな成長は保障できません。

わたしたちは、教職員の長時間過密労働の解消を求めて「提言」を発表しました。解決の方向を一緒に考えませんか。

《提言のくわしい内容は、職場配布のリーフレットをみてください》

いよいよ始まるのか! 公務員の定年引上げ!

2017年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針」において「公務員の定年の引き上げについて、具体的検討を進める」とされたことを受けて検討が進められていました。今月その検討を踏まえた論点整理(案)がだされ、定年引き上げの骨格が見えてきました。新聞報道では、2021年度開始で3年ごとに引き上げる案が浮上しています。

一 基本認識と検討の方向性

①平均寿命の伸長、少子高齢化の進展 ②複雑高度化する行政課題への的確な対応 ↓定年を段階的に六五歳に引き上げる方向で検討

※段階的な定年引き上げの過程においては、フルタイム再任用を一層活用

二 定年を六五歳に引き上げるに当たっての論点についての検討

- 1 定年の引き上げ方
- 2 長期的な視野に立った計画的な人材育成・能力開発
- 3 組織活力の維持のための施策の在り方
- 4 総人件費管理と人件費の価値の向上
 - ①60歳以上の職員の給与水準を一定程度引き下げ
 - ②業務改革や働き方改革による生産性向上の取組
- 5 高齢期における多様な職業生活設計の支援
 - ①60歳以降定年年齢前までの短時間勤務で再任用する仕組みの導入
 - ②自主的な選択としての早期退職の支援
- 6 加齢困難職種の取扱(自衛官等)

全教北九州市教職員組合・女性部が「定年までいきいきライフアンケート」結果を発表

全教北九州が2年ごとに実施してきた「いきいきライフアンケート」も今年で3回目になります。経年比較でも教職員の健康の悪化や勤務状態の厳しさがアンケート結果に反映されています。アンケートの詳細は、女性部発行のリーフレットにまとめています。職場で配布しますので見て下さい。

働きやすい職場をつくるために活用してください。

- アンケートの自由記述では、
- ・仕事と子育て・家庭の両立ができない。持ち帰り仕事も多い。
 - ・職務内容が多い。シンプルにしてほしい。校務支援システムは便利かもしれないが、学校でしか使えないシステムは子育てしている人は無理。しかたなく土日出勤をしている。
 - ・全教職員が多忙。休憩なし、残業、教員不足などや保護者のクレームの増加などで心身ともに疲れ果て、健康面の不安がある。
 - ・市教委の長時間労働のチェックが厳しくなったが、仕事量の多さは変わらず、人手不足なのに、そこだけは正しようとしても無理がある。
 - ・在校時間の報告と管理職の「早く帰りましょう」の声。仕事量が変わらない中、退校を促されることへのストレス。超過勤務すること以上にストレスになっている。
 - ・何ととっても教員を増やしてもらいたい。部活をいくら休みにしたとしても負担は実は変わっていません。やはり人数です。
 - ・中間テスト5教科を一日で行い、その採点は土曜日に7時間かけてしました。日頃は、45分の休憩時間などといったこともなく、ほとんど給食指導などに費やします。生徒指導があれば、夜十時近くまで対応。業間の10分間さえ、廊下に残って生徒の様子を観察。副任でも激務ですが、担任はさらにバタバタしています。あきれたブラック職場です。
 - ・支援学級の定数(1クラス8名まで)が多すぎて、毎日教材準備などに追われる日々である。休憩も取れず、とにかく忙しい。出張などで自習になるとき、学校の人員が少ないため迷惑をかけてしまう。年休も取りづらい。
- 本当に一部の教職員の声しか載せることができませんでしたが、ほかにも子育てで支援休暇の回復や教員免許更新制の廃止の意見、通勤時間の不満など多岐にわたる意見が寄せられました。組合は、このような意見が少しでも実現できるように文科省や市教委、そして議会でも教職員の働き方を問題にし、交渉したり要請したりしています。職場でも、みんなで声をあげれば改善する仕事もあります。家庭や健康を守るためにも、働きやすい職場を一緒に実現しましょう。

今年もやります。「せんせいの学校」!

全教北九州は「学び」も大切にしています。

さて、来年度もせんせいの学校を開催します。その第一弾、「せんせいの学校開校式」を左記の内容で開催します。開校式では、学級づくりのエキスパート、大東文化大学の渡辺先生をお呼びし、実践にすぐに役立つ話も聞けます。

同僚の先生を誘って参加してください。

日時

●4月7日(土曜日)

●13時~17時

場所

◎ウエル戸畑 8階会議室

時間割

・小・中・特支ごとの分科会

・記念講演

・豪華景品が当たる抽選会等

共催

全教北九州共済会

